

諫早総合病院地域医療支援病院運営委員会・地域協議会

令和5年度第2回会議議事録

日時:令和5年8月17日(木)14:00～

会場:諫早総合病院 6階大会議室

書記:総務企画課 千田 友也

- 参加者 別添資料のとおり(院外9名・院内4名・事務局3名)
長崎県福祉保健部医療政策課 加藤様、諫早医師会 吉田様は
都合により欠席

≪議 事≫

(1)紹介率・逆紹介率について・・・1-11頁

紹介率について、前年度の4～6月と比較して大きな変化はなし。

紹介件数は、4～6月で前年より減少した。4月は-51件、5月は-82件、6月は-32件であった。

診療科別では、小児科、脳神経外科が前年度より大きく増加している。循環器内科、歯科口腔外科は大きく減少している。

逆紹介率は、前年度の4～6月と比較して約15%増加している。

逆紹介件数は、4月は+242件、5月は+220件、6月は-126件となっている。

診療科別逆紹介数は、内科、小児科、外科が増加傾向にある。

(長郷院長)

循環器内科、歯科口腔外科において大きく減少となっているが、循環器内科においては季節的なことで疾患件数が減っているのではないかと思う。

(金森)

長崎大学の診療が停止しているので増えていくと思われたが、諫早総合病院は紹介してから診療していただくまでに、2～3週間かかる。重工記念病院は紹介したらすぐ診察していただけて、当日に処置もしてくれる。

(長郷)

歯科口腔外科は現在2名体制であるが、10月から1名体制となる。予約が多く、朝から夕方まで詰まっている状況である。手術は、10月以降大学から麻酔の応援には来ていただけることとなっている。

(藤田)

先日保健所で歯科の協議会が行われた。吉富先生から他院では対応が難しく、逆紹介しにくい患者が多く、自分で抱えてしまっている。連携を強化して、そういっ

た患者さんを他でも診療していただければ、もう少し患者を診ることができると言っていた。

(長郷)

脳神経外科においては1名体制で患者を多く担当している状況であるが、手術も行っている。将来的には2、3名体制として県南地域までカバーしていきたいと考えている。

(2) 救急患者・外来患者について・・・12-16 頁

救急患者数は、前年度の4～6月と比較して4月は-80件、5月は-63件、6月は-116件となっている。

ウォークイン件数は、4月は-89件、5月は-102件、6月は-114件となっている。

救急車来院件数は、4月は+10件、5月は+39件、6月は-2件となっている。

今回からの新しい資料として、救急患者の入院割合を示している。4～6月では前年度、今年度ともに受診患者の約4割が入院している状況である。今年度は昨年度より若干増加している。

次も新しい資料となっており、時間外に来院した患者を時間帯別に表した資料である。時間帯を6時から8時の早朝、8時から17時の昼間、17時から22時の夜間、22時から6時の深夜に分け、さらに平日、休日別に分けている。

ひと月の時間帯別患者数は、平日早朝が13.6人、平日夜間が97.3人、平日深夜が59.3人、休日早朝が7人、休日昼間が92.6人、休日夜間が48.3人、休日深夜が23.6人となっている。

1日あたりの平均外来患者数は、前年度の4～6月と比較して大きな変化はなし。

(長郷院長)

救急車の件数に変化はなく、地域の救急患者に変動はないと思われる。5月が増えているが、ゴールデンウィークによる休日日数が増えたためと思われる。ウォークインが減っているが、クリニックで発熱患者さんに対応いただいている結果だと思う。

時間帯別患者数について、平日は夜間帯が圧倒的に多く、以前から諫早市へ要望しているが、準夜帯の夜間診療センターを作っていただいて、入院等が必要となる2次救急との対応を分けていきたい。

(西)

患者はコロナと熱中症で増えていて、実際今日も朝出勤した救急隊がまだ帰ってきていない状況で、かなり疲弊している。コロナや発熱患者において、諫早総合病院の先生と電話で直接話してもらい、自宅療養にできている件数も多くなるの

で、搬送件数の減少にはつながっている。外傷患者については開業医の先生方に積極的に診察していただけているので助かっている。

(佐藤)

要望いただいた準夜診療センターについて、大村市に勉強に行った。必要性について感じているので、また相談させていただきたいと考えている。

(長郷)

準夜診療センターでは看護師も必要となるが、看護協会ではフリーの方など派遣はできるのか。

(中尾)

いろいろなところから看護師はいないのかと相談がある。潜在看護師に声をかけるがなかなか条件がマッチしない。子育てなどもあり難しいのかと思う。

(長郷)

調剤薬局は夜間の場合、どういった対応がとれるか。

(堀)

かかりつけ患者からの連絡があれば、夜間でも対応しなければならないという決まりになっている。

(長郷)

かかりつけ医のように機能してもらえたら助かる。

(山口)

準夜診療センターが開始された場合、そのセンターに薬剤師を派遣できるのか。

1日ないし2日分はセンターで処方しないといけなくなると思う。

これらの件は、10月の諫早医師会の救急協議会で議題に上がると思う。

(森)

準夜診療センターには期待している。こういった話が進んでいけば一般市民はとも安心してできると思う。

(3) 共同利用について・・・17 頁

開放病床については、4月～6月の利用はなし。CT、MRIの利用数は共に減少傾向にある。

(長郷院長)

開業医の先生から紹介があったときにすぐに受け入れられる体制は整えている。

(4) 諫早市子ども準夜診療センター・・・18－19 頁

前年度の4～6月と比較して4月は+57件、5月は+97件、6月は+46件と増加している。地区別利用者割合は諫早市内外の内訳に大きな変化はないが、5月、6月の諫早市外の内訳では、雲仙市が増加している。

(長郷院長)

令和 2 年度からは増加しているが、コロナ以前と比べれば減少している。患者さんの受診に関する考え方の変化によるものではないか。

(5) 患者相談実績について・・・22 頁

退院調整に関わる相談件数は、入院ベッドの稼働状況に応じて件数が変化している。概ね前年度の同じ件数になっている。

(長郷)

大きな変化はなく、在宅ケアに関すること、転院・転所に関することはコンスタントにある。

認知症に関しても、精神、身体症状と様々で悩んでいる方が多い。早期に受診させるような取り組みなどしていかなくてはいけないと思う。歯科においても認知症で対応に苦慮するような事例はあるか。

(金森)

認知症による短期記憶障害で治療について苦勞することが多々ある。認知症患者の口腔ケアについては課題も多い。

(佐藤)

令和 6 年度に歯科の医療計画を策定予定である。

(6) 研修会の開催状況について・・・23 頁

新型コロナウイルスの感染拡大のため開催を中止していた健康講座を 3 年ぶりに再会した。また、10 月 19 日に多良見図書館で認知症研修を実施予定となっている。

(長郷院長)

できるだけたくさんの方に健康講座を行い、地域の皆様の健康管理に取り組んでいきたい。

(森)

認知症の方が増えているのは、高齢者の方が増えているせいかもしれないが、消防、警察の皆様は大変苦勞されているのだと思う。

(長郷)

認知症に関しては、できるだけ早期に受診して早期のケアをしてほしい。

(川下)

健康講座にできるだけ参加したい。

幸い自分が健康なため、聞かなくていいかなと思ってしまう。

(長郷)

諫早医師会にも情報共有をして、開業医の先生方から患者さんに紹介していたけるとよいかもしれない。

(山口)

スケジュール、テーマが決まれば教えてほしい。

(村本)

今年は健康講座を偶数月に開催することとしている。テーマが決まれば連絡する。今の広報手段は、ナイスいさはや、病院ホームページなので市報などにも掲載できればよい。

(藤田)

県央管内で、最近立て続けに 10 代女子の梅毒が報告された。麻酔科の岡田医師が母親向けの性教育に関する活動をしているようなので、保健所と共同で開催できないかと考えている。

(長郷)

具体的に話をいただければ、医師の派遣などできる限り協力していきたい。
また、学校への出前講座のようなことをしてもよいのではないか。

(中尾)

助産師による学校での性教育はずっと行っている。保健所、病院、地域が一緒になってしていかななくてはいけない。

(7)その他

特になし。